

From The Alumni Association

同窓会だより

■ 学術研修会「有床義歯における難症例へのポイント」

～高橋 裕教授(咬合修復学講座 有床義歯学分野)をお招きして～

7月10日、長崎県歯科医師会館において「有床義歯における難症例へのポイント」と題して高橋教授にご講演を賜りました。ここ数カ月、坂本龍馬ブームで観光客が多く賑やかな長崎ですが、当日はなんと大雨。しかし、さすが高橋教授です！龍馬ブームに負けず劣らず、県内各地より多くの同窓の先生方が参加されました。まず冒頭に大学の施設や教育システムの紹介があり、その大きく様変わりした姿に、自身の在学中と比較して卒業年度の早い先生ほど大変驚かれていたのが印象的でした。

さて今回は身近で毎日のように遭遇する内容で、明日から臨床にすぐ活かせるテーマということで有床義歯の難症例についてご講演をお願いします。現在、どちらかと言えばインプラントに関する話題が多く、近い将来義歯は無くなるという極端な言い方をされる先生もいるとのこと。しかし、実際はインプラント専門施設においても下顎が無歯顎の場合、多くは義歯で対応がなされています。因みに2004年の調査で日本の17施設の平均はなんと93%でしたし、海外においても義歯の方が多いという結果だったそうです。そこで無歯顎の割合を比較してみると、日本人

の65才以上では18%、米国は26%、フィンランドは41%、英国は46%、カナダは58%、アイスランド72%だったそうです。もう少し若い年代や多数歯欠損を加えるとその割合はかなり多くなるものと思われま。これからも毎日、日常臨床において有床義歯と関わることになりそうです。義歯については、印象における粘膜面、頬舌側の研磨面やデンチャースペースに関しても重要ですが、今回は総義歯における咬合様式に絞って話をされました。顎堤が良好の場合はフルバランス、平均的な場合はリングライズド、難症例の場合、上顎は槽歯頂に排列し咬合面は出来るだけフラットに近い形態で下顎頬側咬頭のみを接触させる様式、これを高橋教授はブッカライズドと言

われていましたが、松本洋一先生(元学長)が提唱された難症例の咬合様式だそうです。これらを症例ごとに分けし、一つの目安として採用されているそうです。あつという間に時間が過ぎ詳しくお聞きしたい箇所が数多くありましたが、まずは教えて頂いた内容を実践し次回のご講演を楽しみにしたいと思います。

終了後、場所を中華街に移し教授を囲んで宴を持ちました。宮口会長ご夫妻が補綴学教室の先輩という事もあり時折緊張されているご様子でしたが多くの先輩後輩で懇親を深めました。

高橋教授におかれましては公務多忙の中、ご来崎頂き再度感謝申し上げます。

長崎県同窓会(歯ってん会)会長 俣野 正仁



■ 同窓会通信 「大阪、地下鉄御堂筋線にて」

猛暑の続く8月7日、午後9時前、「御堂筋線なんば駅」へ田中健蔵理事長と北村憲司大学長を送りました。本学大阪府同窓会会員懇親会に出席後、田中先生達は、「新大阪駅」から新幹線で帰博の途につかれたのです。

この日の午後3時半から、大阪府同窓会総会、近畿ブロック学術講演会、近畿ブロック報告会がありまして、この報告会出席のため田中先生達は来阪されたのです。この報告会では、まず、成瀬 悟名誉教授(元薬理学教授)が、高嶺明

彦副会長へ参院選不出馬に関するの労いの言葉、本学の定員割れへの懸念、同窓生からの教授就任の期待など熱く語られました。

これに対し、田中先生は、入学定員割れについてその具体策として、来春大阪で入試会場を設けることへの協力依頼をされました。また「口腔医学の推進」や同窓生からの教授就任の強化など、本学運営への強い姿勢が感じられました。

既に、法人と本同窓会は協力して、5月30日、

7月4日両日、同窓生子弟を対象に「オープンキャンパス」、「入試説明会」を開催し、盛況でした。このように、来春の定員充足に向けて早々の諸々の対処がされています。

博多駅に、新幹線が着くのは深夜午前0時頃、地下鉄のホームに消えて行く田中・北村両先生の背中を見ながら、母校の頑張りと同窓会としてもできる限りの協力をしなければと思った次第です。

専務理事 武井 俊哉

卒業生トーク

「修行僧!？」 池田 正博(18期)



みなさんこんにちは。18期の池田正博です。平成8年卒ですから、私が卒業してやがて15年となります。こうやって書いてみると、月日がたつのは早いものだと、改めて驚いております。

15年も経てば、その間にいろんなことがあります。技術、知識の研鑽、開業、家庭においては子供たちの成長に伴ってのさまざまな事柄…。そのひとつひとつがそのときそのときの課題みたいなものでして、その課題を履修しなければならない、まるで修行僧のように日々を送っている感じでした。本当に頑張ってますって感じで(笑)。

そんな中、数年前にご縁があり所属の歯科医師会にて委員会活動に参加させていただくようになりました。

当初はそんな「修行僧」状態でしたから、この上、委員会活動までは…と正直あまり前向きではなかったんですが、ふたを開けてみると、この委員会活動での同窓の先生方との出会いを通じて新たな発見が出来たんだな、と、今は感じています。

まるで部活の先輩、後輩のような感覚で、同窓生、同業者の後進の育成に対する考えやその実践されている姿を、気さくに、以前からの友であるかのように見せていただける。

「修行僧」であった私には今までさほどの横のつながりもなく「個人的な修行」の日々だったため、こんなことは驚きでした。そして、その先生方の同窓生や大学に対する思い、ひいては社会貢献に対する考え方には、違った角度の「修行」をさせていただき、かつ、先生方の懐の大きさに感銘を受けたのでした。

最近はこの新たな角度の「修行」を通じて、社会に対し、歯科医師として、また同窓生としてのあり方を諸先輩方に教えを請いつつ、自分も懐の大きい「修行僧!？」になれるよう頑張りたいと思っています。



「よい歯のコンクール」表彰式にて